

日本獣医師会獣医学術学会誌投稿の手引き

(令和4年1月1日 日本獣医師会)

1 目 的

本手引きは、日本獣医師会獣医学術学会誌投稿規程(以下「投稿規程」)に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

2 投稿資格及び条件関連

- (1) 筆頭著者は、日本獣医師会構成獣医師若しくは賛助会員(個人に限る)でなければならない。それ以外の者が筆頭著者の場合は、投稿料を徴収する(投稿時審査料10,000円、採用時掲載料50,000円を納入する)。ただし、編集委員会が認めた者については、この限りでない。
- (2) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。
- (3) 投稿原稿は、獣医学が扱う臨床、動物衛生、食品衛生、環境衛生、人と動物の関係、獣医学教育、動物用医薬品・機器等を内容とする、獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし、委員会において、掲載に相応しい学術分野を指定する。
- (4) 他の学会誌等に投稿中、若しくは発表した論文等は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。

3 投稿要領関連

(1) 投稿の方法

- ア 投稿は、本会投稿用ホームページの電子投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」で行う。
- イ 原稿は、本会投稿WEBサイト上の投稿マニュアルに従い、必要事項を記入した後、本文(表紙から引用文献までを1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名-本文.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式で保存する)、図(すべての図を番号順に1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名-図.拡張子名」とし、白黒1200dpi以上、グレースケール及びカラーは300dpi以上(ただし、写真はカラーのみ、掲載は白黒印刷)でPDFあるいは、PowerPoint/ppt, pptx形式、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xlsx形式、Photoshop (Jpeg, Tiff)/jpg, tiff形式で保存する)、表(すべての表を番号順に1つのファイルに集約して、ファイル名を「氏名-表.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xlsx形式(映像化は不可)で保

存する)を同サイト(<https://mc.manuscriptcentral.com/jvma>)にアップロードする(ファイル合計60MB以内)。

(2) 原稿の体裁

原稿は、A4判縦で余白を上下左右25mm、文字色は黒、字体は日本語はMS明朝、英語はCentury、字の大きさは12ポイント、行間はダブルスペースとし、横書きで欄外下部中央にページ及び左欄外に行番号を付す。

なお、修正原稿については、修正箇所は青色の文字で記載する(見消機能や注釈機能等は用いない)。

(3) 原稿の長さ等

ア 原稿は、表題、和文要約、英文要約(SUMMARY)、本文、図(写真を含む)・表等すべてを含み、その長さは、投稿区分毎の刷り上り規定頁数(別表)内に収める。

イ 刷り上り1頁あたり最大2,400文字を記載できるが、図表を入れる場合、その数と大きさには、本文等の文字数との兼ね合いを十分考慮しなければならない。

(4) そ の 他

以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

【別表】掲載区分及び刷り上り規定頁数

掲載区分	刷り上り規定頁数
総 説	6頁以内
原 著	5頁以内
短 報	4頁以内
技術講座	4頁以内
資 料	2頁以内

4 執筆要領関連(原著及び短報)

(1) 用 語:

- ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り(例:人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等)、それ以外のものはカタカナで表示する。
- イ 薬品名は、原則として一般名若しくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する。
- ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品(製品)名及び社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる(商品(製品)名、社名、都道府県名の順/例:ニチジュウワクチン、日獣製薬(株)、東京)。

(2) 表紙 (第1頁) :

- ア 最上段左側に部門名, 希望投稿区分及び「新規」(新規投稿原稿の場合) あるいは「継続」(継続審査原稿の場合) の表示を赤字で明記する。
- イ 次いで, 表題, 著者名, 所属機関名 (大学は学部名, 都道府県勤務は支所名 (本所は部名), までとし, 「〇〇動物病院」⇒「〇〇県 開業」(県名は所属獣医師会または所在地名), 「株式会社」⇒「(株)」, 「公益(一般)社団法人」⇒「(公(一)社)」, 「公益(一般)財団法人」⇒「(公(一)財)」, 「独立行政法人」⇒「(独)」, 「国立開発研究法人」⇒「(国研)」, 「特殊法人」⇒「(特)」等とする。) 及び所在地住所 (郵便番号を含む。併せて, 実際の動物病院名も記す。) を和文で記載する。
- ウ 表題は原則として副題, 括弧, 略号, 「～について」, 「～に関して」等は付けない。
- エ 最下段には連絡責任者の所属 (大学は教室名, 都道府県勤務は係名まで, 動物病院等は, 実際の名称を記載), 住所, 電話番号 (ファックス番号), メールアドレスを記入し, 別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する。
- オ 表題が28字を超える場合には, 28字以内の柱 (ランニングヘッド) を記入する。

(3) 和文要約 (第2頁) :

字数は360字以内とし, 要約の最下段には, 原著では5語以内, 短報では3語以内の日本語のキーワードを英文の Key words に対応する順で記載する。

(4) 英文 SUMMARY (第3頁) :

- ア 英文の表題, 著者名, 著者の所属機関名, 所在地住所 (郵便番号を含む), SUMMARY 及び Key words を記載する。
- イ SUMMARY は, 250語以内とし, 行間を広く空けて記載する。
- ウ SUMMARY はなるべく和文要約に対応した記載にする。
- エ Key words は, SUMMARY の最下段にABC順で記載する。

(5) 本文 (第4頁以降) :

- ア 原則として, ①緒言 (見出しは付けない), ②材料及び方法, ③成績, ④考察, ⑤引用文献の項目に区分して記述し, 数字を用いて項目分けしない。 (ただし, 短報では必ずしも, この区分で記述する必要はない)。
- イ 実験動物等の取り扱いについては, 所属研究機関の動物実験ガイドライン (指針) に沿って動物に苦痛を与えないように実験を行った (または動物実験委員会の許可を得て実験を行った) 旨を明記した上で, 動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記

述し, 当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し, 併せて動物の入手方法と飼育状況を具体的に記載する。

ウ 図 (写真)・表

- (ア) 図 (イラストレーションを含む) は, 原則として黒一色とし, A4版の白紙を用いて, 表題を付け, 原図から直接製版できるものとする。
- (イ) 表は, 縦罫線を入れない。
- (ウ) 写真は, デジタル画像を用い, カラーで正確なフォーカス及びコントラストの明瞭なものとし, 表題と簡単な説明を付け, 横7.8cm, 縦6.0cm または横15.5cm, 縦10.0cm とする。
- (エ) 写真には図と同様に一連の番号を付ける。
- (オ) 図及び表は, それぞれ1つのファイルにまとめる。

エ 引用文献

- (ア) 研究に密接に関係のあるものを引用する。引用できる文献は, 学会誌, 専門的学術誌あるいは専門書とし, 学会抄録, 講演会テキスト, レフリー制度のない商業雑誌等は原則として引用できない。
- (イ) 本文中では, 著者名の直後等, 引用箇所 [1, 3-5] のように記載する。
- (ウ) 文末に, 本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく。①雑誌の場合は, 著者名 (全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁 (1箇所のみ), 年次 (カッコ書き) とする。②電子ジャーナルの場合は, 著者名 (全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁 (1箇所のみ), 年次, 入手先 (原則としてDOI表示がある場合はDOIを, 無い場合はURLをカッコ書き), 入手日 (「参照」として, 年月日を記載) とする。③単行本の場合は, 著者 (著者が複数の場合は, 引用した著者のみ), 記事のタイトル名, 書籍名, 訳者名 (1名のみ記載し, その他は和文では「他」, 英文では「et al」とする), 編者名, 版, 頁, 発行者, 発行地, 年次 (カッコ書き) とする。ただし, 著者名がない際は, 編者がいる際は編者名を, その他は, 学会, 研究会等の名称を記載する。
- (エ) 和文誌名は原則として省略しない。ただし, 慣例的に使用されているものはこの限りではない (例: 日獣会誌, 日獣誌など)。
- (オ) 欧文誌名の省略は, Journal Title Abbreviations による。指定のないものは省略しない。

【雑誌の場合】

- [1] 青山太郎, 青山花子, 赤坂次郎: 子牛の開放性骨折の1例, 日獣会誌, 45, 115-120 (1992)
- [2] 青山太郎, 青山花子, 江戸三郎, 東京 愛: 犬のレプトスピラ症の抗原検出法, 日獣誌, 30, 135-138 (1992)

- [3] Aoyama T, Aoyama H : The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)
- [4] Aoyama T, Aoyama H, Kanda J : A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
- [5] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y : Pathogenicity of the aino virus in Japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

【電子ジャーナルの場合】

- [1] 永田四朗：犬ブルセラ症の検出法，家庭動物の感染学会誌，25，55-65（2010），(<http://www.petzoonosis/article/25/1/1/pdf/s>)，(参照2013-04-20)

- [2] Williams A : Superinfection of bovine leukemia virus genotypes in Africa, cattle doctor, 50, 215-220 (2012), (DOI: 10.1695/cattledoctor.50.215), (accessed 2013-05-05)

【単行本の場合】

- [1] 神田一郎：マイコプラズマ，獣医微生物学，江戸三郎編，第1版，100-103，青山堂出版，東京（1992）
- [2] Smith J：マイコトキシン中毒，選択毒性，赤坂次郎訳，250，学会出版センター，東京（1989）
- [3] Roitt IM : Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)

お知らせ

日本獣医師会獣医学術学会誌の著者負担金について

日本獣医師会獣医学術学会誌に係る著者負担金は以下のとおりです。

1 投稿規程第9条第1号関係

筆頭著者が会員構成獣医師及び個人賛助会員（学生賛助会員を含む。）の場合は，審査料及び掲載料ともに要しないが，これ以外の者については，次の審査料及び掲載料を納入する。

(1) 投稿時審査料：

10,000円

（ただし，学生の場合は，5,000円とする。）

(2) 採用時掲載料：

50,000円

（ただし，学生の場合は，10,000円とする。）

2 投稿規程9条第2号関係

超過頁の作成料：15,000円／1頁

3 投稿規程第9条第3号関係

原図の作成料：

実費相当額（1枚につき5,000円程度）

4 投稿規程第9条第4号関係

別刷の印刷料：

実費相当額（モノクロ刷り上がり4頁（表紙付き）100部につき30,000円程度）

ただし，カラー印刷を希望する場合は，応相談。

（令和4年1月1日改訂）